

研究名：とろみ付炭酸水の効果検証

1. 研究の目的

誤嚥性肺炎とは、食べ物や唾液が食べ物の通り道ではなく、息の通り道、肺へ誤って入ってしまい肺炎を引き起こす病気です。日本では誤嚥性肺炎は主要な死因の一つであり、2022年には第6位に位置づけられました。誤嚥性肺炎の死亡者は高齢者に多くみられ、超高齢社会の進展とともに、増加する傾向にあります。

誤嚥性肺炎の原因の一つに摂食嚥下障害があります。ご飯を食べるときにむせたり、通常のご飯が食べられずに柔らかいムースのような食事を摂取しないといけなくなったりします。摂食嚥下障害は、誤嚥性肺炎だけでなく、低栄養、筋力低下、歩行能力低下、窒息への恐怖、食べる楽しみの喪失など QOL 低下にもつながり、1年後の死亡リスクは2倍になることが報告されており、とても重要な問題です。

炭酸水はこの摂食嚥下障害を治療しうる選択肢の一つです。通常の水など粘度の低いものが入ってくる速度が早く誤嚥してしまう人に対して、“とろみ”という粘稠剤を使用することにより誤嚥のリスクを軽減させます。このとろみを炭酸水につけたものが“とろみ付炭酸水”です。シュワシュワとした泡の刺激を残したまま、とろみのメリットを使います。口に入れるだけで摂食嚥下機能を改善しうる画期的な治療法です。本研究では、“とろみ付炭酸水”が摂食嚥下にどのように影響するかを検討することが目的です。

2. 研究の方法

- ① 研究対象：当病院で2024年7月～2025年7月まで摂食嚥下障害のため、言語聴覚士によるリハビリを受けた患者さん
- ② 研究期間：2024年7月～2025年7月
- ③ 研究方法：当院で入院し、言語聴覚士のリハビリが必要と判断された場合、リハビリの一貫として言語聴覚士により摂食・嚥下機能を評価します。このときのデータを匿名化した状態で集め、分析します。この研究のためだけに新たに検査など追加したりすることはありません。

3. 研究に用いる情報の種類

診療情報：年齢、性別、BMI、口に入れてから飲み込むまでの時間などの摂食嚥下機能

※患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報
は調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

4. 情報の公表

公開データベース：UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）

（<https://www.umin.ac.jp/ctr/index-j.htm>）に登録しています。

研究内容は学会発表や学術論文の形で公表する予定です。

5. 研究実施機関

洛和会丸太町病院

※この研究を行う目的と研究を行う方法が正しく考えられているか、また、参加いただく患者さんの人権が保護され、安全性が確保される内容になっているか、などについて、倫理審査委員会で科学性および倫理性が審議され、洛和会丸太町病院長より承認を受けています

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2025年9月ごろまでに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

洛和会丸太町病院 耳鼻咽喉科 小澤聡美

住所：〒604-8401 京都市中京区七本松通り丸太町上ル

電話：075-801-0351

○研究責任者：

洛和会丸太町病院 リハビリテーション部 西野昌宏

洛和会丸太町病院 耳鼻咽喉科 小澤聡美